

1. 今日のお話の内容

- (1) 地球が温められるしくみ
- (2) 地球上で起きている環境の変化
- (3) 地球をあたためるガス二酸化炭素の実験
- (4) 家庭で節電の取組みと地球温暖化との関係
- (5) 家族全員がリーダーです。「二酸化炭素」を進んで減らしましょう。
(目に見えるよう電気料金の減少に頑張ろう。)
- (6) 「食品ロス」をなくし、「3015」で楽しい食事にしよう。
- (7) 「プラごみ減少」で富山の美しい海岸を守ろう。
- (8) 家族みんなが助け合い、地球にやさしく、家計にやさしい、チャレンジ10を楽しく取組みましょう。

2. 人間はどこまで深くもぐれるか？

- (1) 生徒のすもぐり・・・学校のプールの水深 1.2m～1.5m
- (2) 大人でもぐれる深さ・・・5 m
- (3) りょうしには、5分近く息を止めたり、30m 以上もぐる人もいる。
- (4) 水にもぐると水圧がかかる。10m もぐるごとに1気圧かかる。
1気圧は、1 m²を約1 kgで押す力です。

3. 海水が青く見えるのは、どうしてか？

光は、およそ水深 1,000m くらいまで届くが、赤い光は、水分子に吸収されやすいという性質をもっているため、海の中は、深くなるほど青い光ばかりが届き、すべてが青く見える。

4. チッソとリンが、海の豊かさをつくる。

海で生きる生命を支えているのは、植物れんさの始まりになる植物プランクトンがあるからです。

植物は、光合成で栄養をつくることができるけれど、いくつかの栄養素は外部から吸収している。特に不足しやすいのが、たんぱく質のもとになるチッソと細胞の核をつくるリン酸で、この2種類がどれだけ豊富かで、その海域の生命の豊かさが決まるのです。

5. 進む海洋汚染をみのがすな！

自然の中で分解されにくいペットボトルやレジ袋、ナイロンやポリエチレンでつられた釣り糸などは、海中に捨てられると、少しずつ細かくなりながら、分解されることなく残り続ける。深海魚の体内から人工物が発見される確率が高くなってきている。化学物質による汚染は深刻です。

日本でも、海中に捨てられた有機水銀類が食物連鎖でとれた魚介類を食べることで病気になってしまう公害をいくつかの県で経験しています。

海を上手に利用しながら、汚染を見逃さず、改善する努力を忘れないことが大切です。